

岩尾別川流域の鳥類調査結果 (2012年)

中川 元

099-4113 北海道斜里郡斜里町本町 49-2, 斜里町立知床博物館

The Record of Birds along Iwaobetsu River Surveyed by Line Census in 2012

NAKAGAWA Hajime

Shiretoko Museum, 49-2 Hon-machi, Shari, Hokkaido 099-4113, Japan ✉ hajime-n@apost.plala.or.jp

Total of 17 bird species were recorded by two days line census along Iwaobetsu River, Shiretoko in June 2012. Among them, the narcissus flycatcher *Ficedula narcissina*, and the eastern crowned leaf warbler *Phylloscopus coronatus* were the two dominant species.

はじめに

知床本来の原生の森を復元する「100平方メートル運動の森・トラスト」運動は、1977年に始まった「知床100平方メートル運動」の20年間の成果を引き継ぎ、1997年にスタートした。運動の長期目標として掲げられた項目の一つが「本来的な野生生物群集と自然生態系の循環を再生する」ことであった。具体的取り組みとして、運動地を流れる岩尾別川の生物群集と生態系循環の復元を行うこととし、サクラムスの復元と河川環境の改善策が進められた。そして、すでに絶滅したカワウソの生息復元の可能性が検討されてきた(石城2005)。鳥類相の復元については、シマフクロウなど5種の希少鳥類について検討されたが、いずれの種も運動地周辺では繁殖や生息が継続しており、「運動地内で定着、繁殖することを目指す種」として取り組むこととされた(中川2005)。

本調査は、岩尾別川流域の現在の鳥類生息状況を調べ、河川流域の鳥類群集や生態系復元のための基礎資料とすることを目的に実施したものである。

調査地と調査方法

岩尾別川沿いの町道(岩尾別温泉道路)を調査

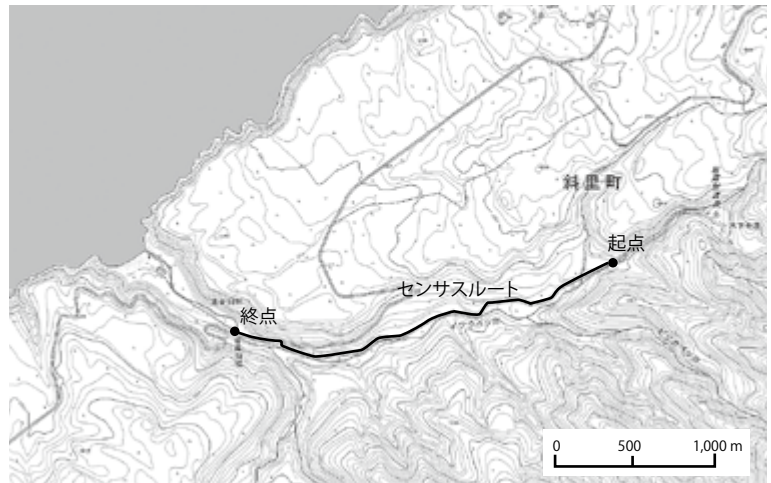
ルートとして、清流橋から道道の駐車帯まで2.7 kmのラインセンサスを行った(図1)。調査地の環境はトドマツやカツラからなる針広混交林である。調査ルートに沿って時速約2 kmの速度で歩き、片側25 m、計50 m幅の調査帯に出現した鳥の種と個体数を、双眼鏡による目視と鳴き声により記録した。また、調査帯の外に出現した種やセンサス終了後に出現した種については別に分けて記録した。調査は2012年6月5日と6月19日の2回、いずれも日の出前から日の出後の早朝に実施した。

調査結果

2回の調査で4目12科17種が記録された(表1)。なお、種名及び分類体系は日本鳥学会(2012)に準拠している。表2には記録種の1 km当たりの個体数と優占度(%)を示した。6月5日はキビタキが最も優占しており、センダイムシクイとオオリがこれに次いでいた。6月19日はセンダイムシクイが最も優占しており、キビタキがこれに次いでいた。この結果から、キビタキとセンダイムシクイがこの調査地の優占種と考えられた。

岩尾別川流域では約30年前の1979年6月6日と1980年6月12日に鳥類調査が行われている(中

図. ラインセンサスルート. 国土地理院基盤地図情報をもとに作成.



川 1980). 調査ルートは同じ町道沿いである. この調査では1979年に14種, 1980年に9種, あわせて17種が記録されている. このうち前回調査と今回調査の両方で記録された種はキジバト, ツツドリ, カワガラス, ハシブトガラス, ヒガラ, センダイムシクイ, カワガラス, キビタキ, オオルリの9種で, 前回調査で記録されたオシドリ, アマツバメ, ハシボソガラス, ハシブトガラ, シジュウカラ, クロツグミ, コサメビタキの7種は今回記録されなかった. 両調査とも2回のみの調査であり, 比較をすることは難しいが, センダイムシクイとキビタキは両調査ともに優占種となっていた. また, 溪流に生息するカワガラスが両調査で記録されている. 前回調査時はオシドリのつがいが観察され, 流域で繁殖していた可能性があったが, 今回は記録されなかった. この30年間でエゾシカの急増による林床植生の変化があったが, 鳥類相への明らかな影響は確認できなかった. 今後

も定期的な調査の実施によって岩尾別川流域の鳥類相の変化を記録し, 生態系復元の指標の一つとすることが必要である.

引用文献

- 石城謙吉. 2005. 「100平方メートル運動の森・トラスト」と絶滅種の復元. 知床博物館研究報告 26: 25–27.
- 中川元. 1980. 知床半島の鳥類調査報告. 北海道生活環境部自然保護課(編), 知床半島自然生態系総合調査報告書(動物編). pp. 43–79. 北海道生活環境部自然保護課, 札幌.
- 中川元. 2005. 100平方メートル運動の森における希少鳥類復元検討結果. 知床博物館研究報告 26: 55–60.
- 日本鳥学会. 2012. 日本鳥類目録(改訂第7版). xx + 438 pp. 日本鳥学会, 三田.

表1. 記録鳥類リスト

ハト目	COLUMBIFORMES
ハト科	Columbidae
1 キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>
2 アオバト	<i>Treron sieboldii</i>
カッコウ目	CUCULIFORMES
カッコウ科	Cuculidae
3 ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>
キツツキ目	PICIFORMES
キツツキ科	Picidae
4 アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>
5 クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>
6 ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>
スズメ目	PASSERIFORMES
カラス科	Corvidae
7 ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>
シジュウカラ科	Paridae
8 ヒガラ	<i>Periparus ater</i>
ムシクイ科	Phylloscopidae
9 センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>
ゴジュウカラ科	Sittidae
10 ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>
カワガラス科	Cinclidae
11 カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>
ヒタキ科	Muscicapidae
12 アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>
13 キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>
14 オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>
セキレイ科	Motacillidae
15 ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>
アトリ科	Fringillidae
16 イカル	<i>Eophona personata</i>
ホオジロ科	Emberizidae
17 アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>
合計	4目 12科 17種

表2. 調査結果.

	2012年6月5日		2012年6月19日	
	n/km	dom/%	n/km	dom/%
キジバト	+			
アオバト			+	
ツツドリ	+		+	
アカゲラ	+			
クマゲラ			+	
ヤマゲラ	0.37	10.0		
ハシブトガラス	+		0.37	11.1
ヒガラ	0.37	10.0		
センダイムシクイ	0.74	20.0	1.11	33.3
ゴジュウカラ	+			
カワガラス	+			
アカハラ	+		+	
キビタキ	1.11	30.0	0.74	22.2
オオルリ	0.74	20.0	0.37	11.1
ハクセキレイ			0.37	11.1
イカル	+			
アオジ	0.37	10.0	0.37	11.1

+: 調査範囲外で記録された種